

2014
7

長崎県の“土木”のいまがわかります

NO. 23

DOVOC通信 ながさき

特集
1

土木部の予算

特集
2

津波防災地域づくりへの取組み

ザーむあつぷ
ながさき人

長崎県の土木遺産

DOVOC インフォメーション



みなさんのご協力により完成しました。
ありがとうございました。

〔完成箇所〕



青砂ヶ浦トンネル(主要地方道有川新魚目線) 新上五島町
上五島における北部地域への交通の利便性が向上しました。



愛野森山バイパス(国道251号) 雲仙市・諫早市
地域高規格道路「島原道路」の一部であり、所要時間が約3分短縮されるとともに、国道251号の愛野交差点で発生している慢性的な交通混雑が解消されました。



飯香浦区【片峰橋】(主要地方道野母崎宿線) 長崎市
長崎市東部における、消防・救急活動への支援が期待されます。



県営住宅(毛井首団地) 長崎市
エレベーター付きのバリアフリー改善工事を行うことによって、高齢者にも安心して住んでいただける住戸となりました。



臨港道路厳原久田線 対馬市
厳原港の南北の埠頭を結ぶことにより、水産物などの円滑な輸送と既存道路のバイパスとしての安全な通行を確保しました。



都市計画道路滑石町線(横道工区) 長崎市
現道の2車線を4車線に拡幅したことにより、通勤時間帯の渋滞が緩和されました。



都市計画道路相浦棚方線 佐世保市
旧県道は狭小で見通しも悪く慢性的な渋滞が発生していましたが、バイパスが完成したことにより渋滞が緩和され、移動時間も短縮されました。

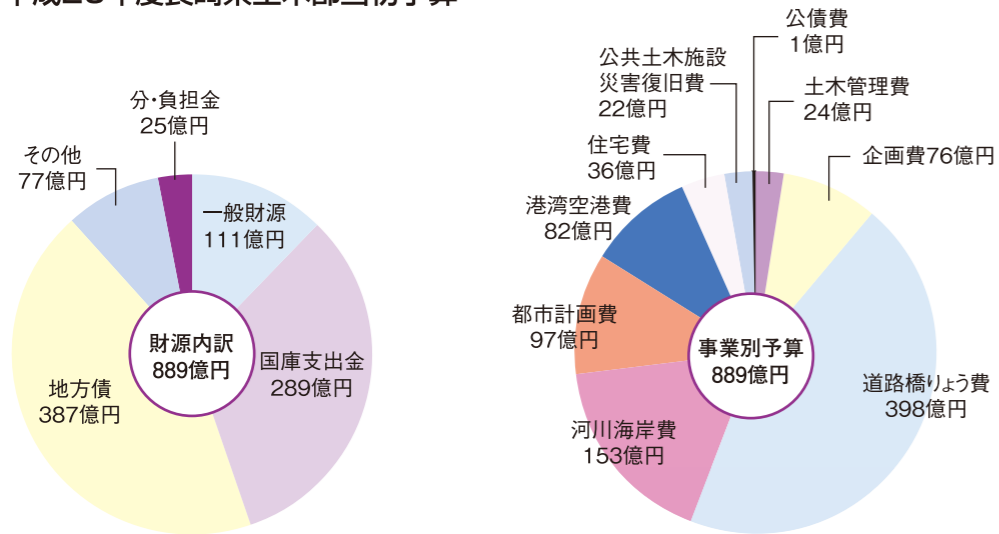


日野川河川改修(総合流域防災事業) 佐世保市
河川改修が進んだことにより、下部の浸水被害の軽減が図られました。

平成26年度予算の 使いみちと財源

土木部の平成26年度の予算は889億円。
県民のみなさんの安全で快適な暮らしを支えるための事業を行います。

平成26年度長崎県土木部当初予算



重点的な取り組み

住宅の性能向上リフォームを支援します

県では、平成26年度も、性能向上のための住宅リフォーム工事を、県内の各市町と一緒に支援します。市町で事業開始時期が異なり、早い市町は、4月より開始しております。事業を開始した市町については、順次、県の住宅課のホームページでお知らせしていきます。

- バリアフリー・安全型リフォーム:
工事費の1/5(上限:10万円)
- 省エネルギー型リフォーム:
工事費の1/5(上限:10万円)
- 防災型リフォーム:
工事費の1/5(上限:10万円)

◆工事の一例◆



主な事業箇所

道路・街路

- 〔継続〕島原道路(島原市・諫早市・雲仙市)
- 〔継続〕西彼杵道路(時津町)
- 〔継続〕JR長崎本線連続立体交差(長崎市)
- 〔新規〕佐世保世知原線(板山工区)(佐世保市)
- 〔新規〕厳原豆酸美津島線(吹崎工区)(対馬市)
- 〔新規〕長池二会線(島原市)

都市公園

- 〔継続〕百花台公園(島原市・雲仙市)

港湾

- 〔継続〕厳原港(対馬市)
- 〔新規〕口ノ津港(南島原市)

河川・砂防

- 〔継続〕時津川(時津町)
- 〔継続〕立岩地区地すべり(松浦市)
- 〔新規〕早岐川(佐世保市)
- 〔新規〕端免地区地すべり(松浦市)

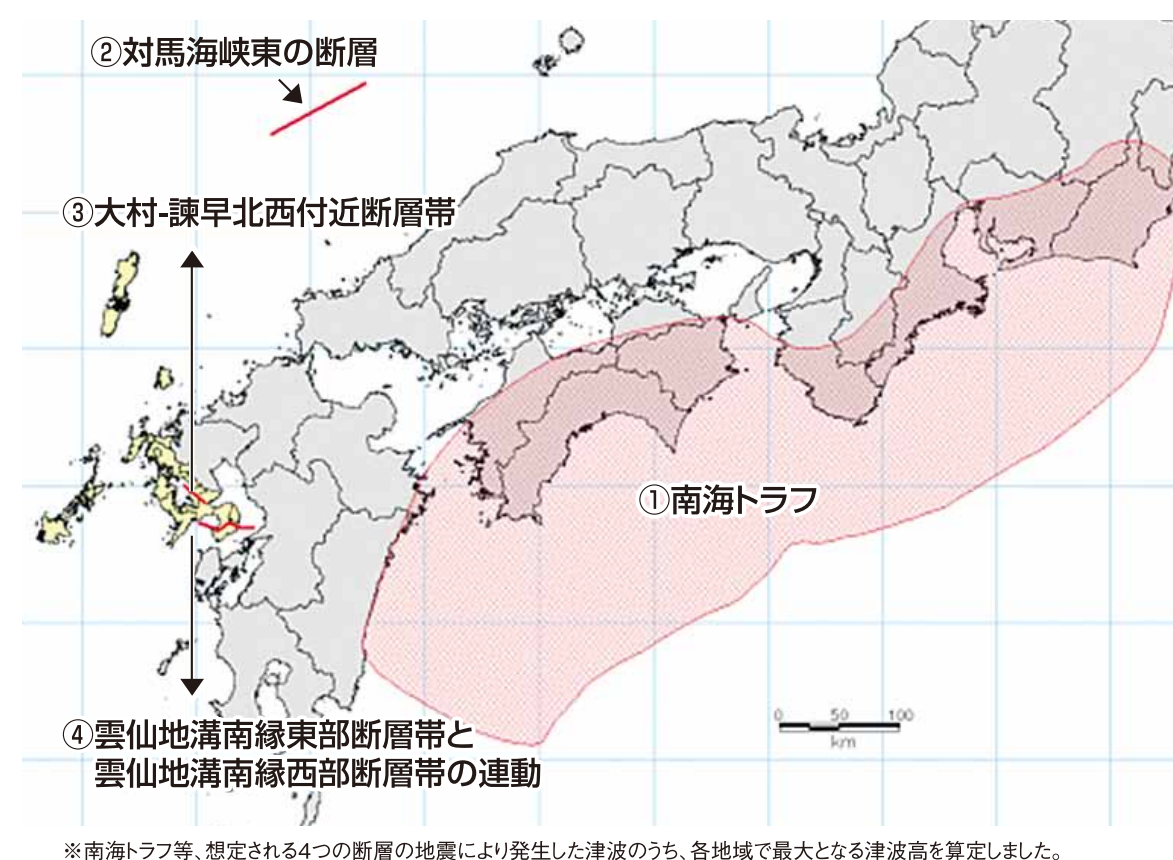
住宅

- 〔継続〕滑石団地(長崎市)
- 〔継続〕深堀団地(長崎市)

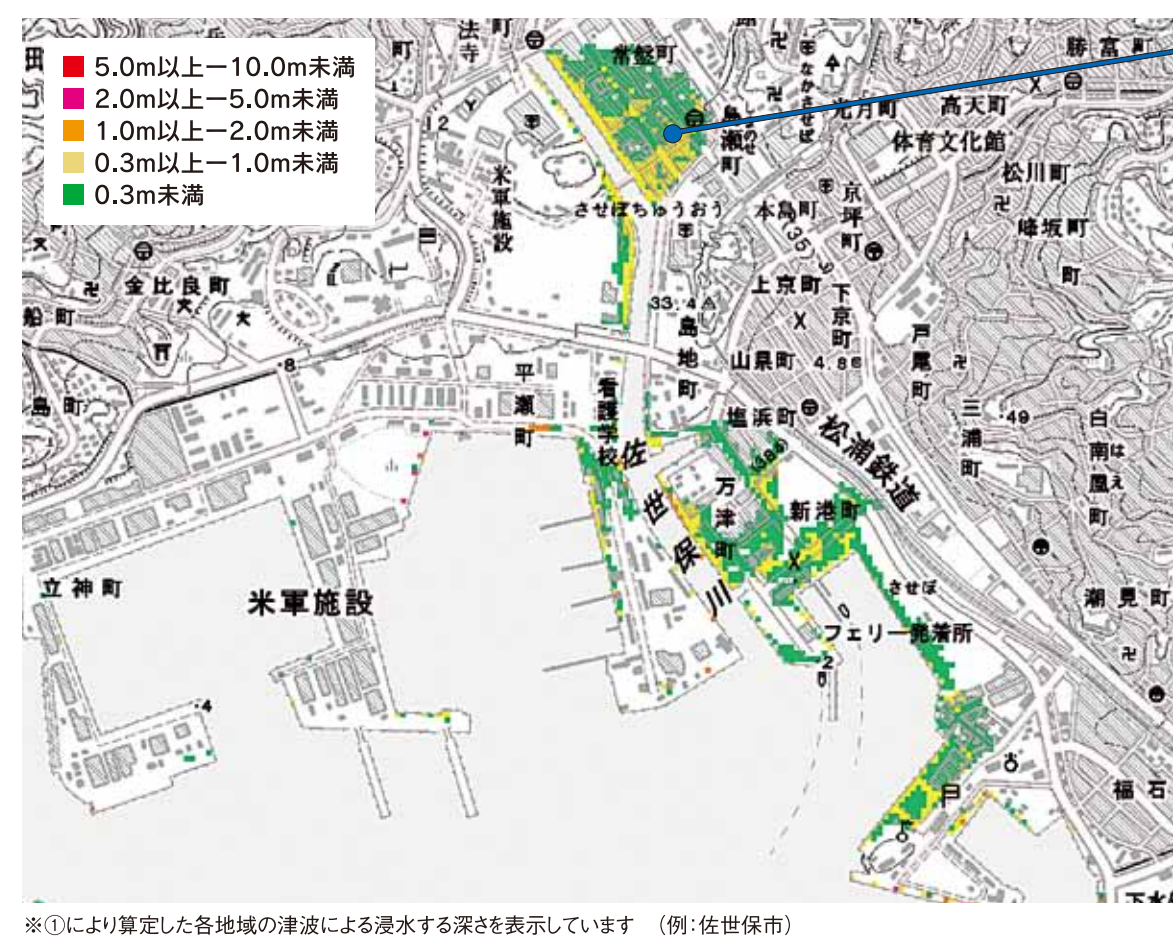
津波防災地域づくりへの取り組み

平成23年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を教訓に施行された「津波防
災地域づくりに関する法律」に基づき、長崎県では「最大クラスの津波」を設定し、津波浸水想定図を
公表しました。

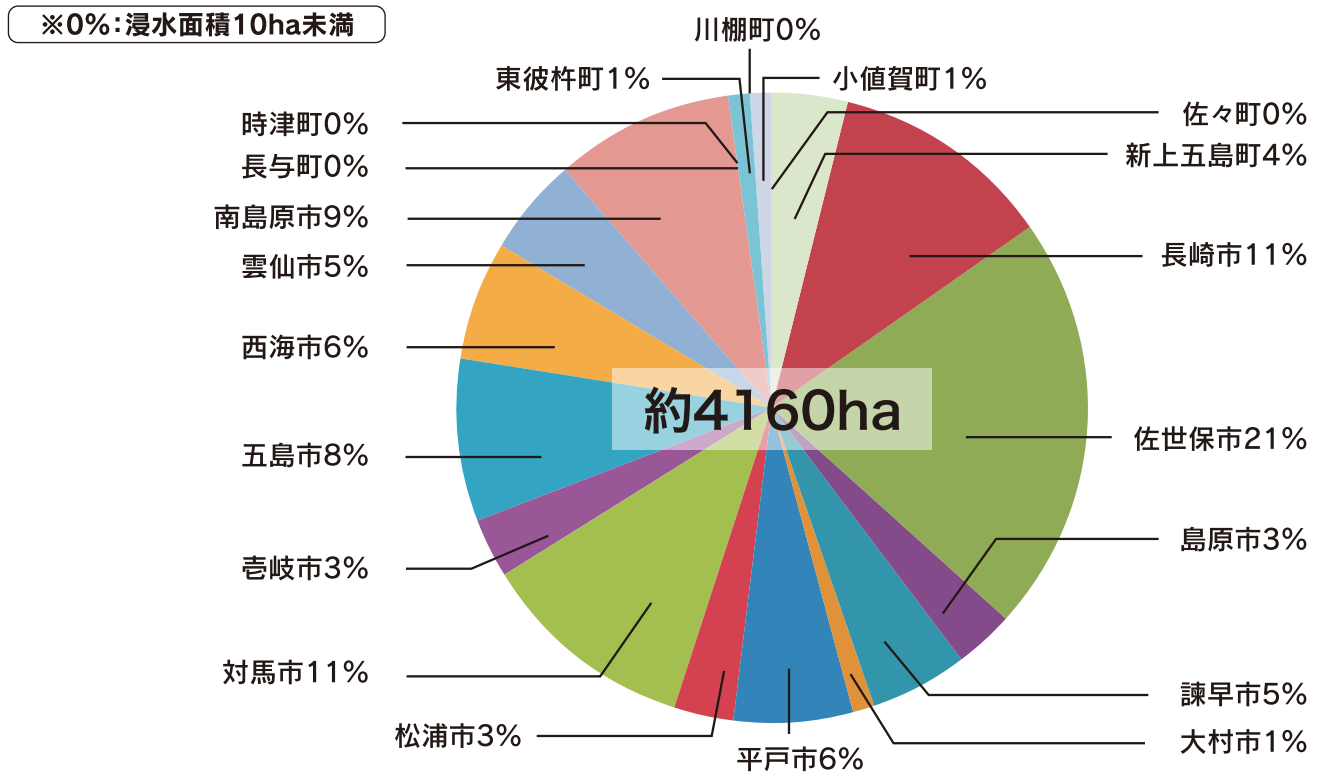
① 津波断層モデルによる津波高の検討
(これまでの調査や内閣府の南海トラフ調査を踏まえて設定)



② 最大クラスの津波による津波浸水想定図



③ 想定される浸水面積の割合



④ 今後の取組

津波災害警戒区域 推進計画

都道府県知事は、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域を指定することができます。さらに、特に開発行為及び建築を制限すべき土地の区域を津波災害特別警戒区域として指定することができます。

市町村は、基本指針に基づき、かつ、津波浸水想定を踏まえ、津波防災地域づくりを総合的に推進するための計画(推進計画)を作成することができます。

津波防災地域づくりのイメージ



津波防災地域づくりを総合的に推進するため、津波災害警戒区域の指定や市町村が策定する推進計画の作成を支援してまいります。詳しい津波浸水想定図や各市町村毎の浸水面積等は長崎県港湾課のHPで公表しています。

長崎県港湾課 検索

川に学ぼうかい in 浦上川 (川平地区)

代表
高松隆也さん



川と水の安全講習会の様子。「今度は小学生にも参加を呼びかけたいです」と高松さん

防災の第一歩は「助け合い」の心 活動を通して地域を元気にしたい

長崎市の東北部にある川平地区は、浦上川の上流に位置し、緑に囲まれた自然が多く残る地域です。この川平地区で、浦上川上流周辺の清掃、美化活動を行っているのが「川に学ぼうかいin浦上川（川平地区）」のメンバーです。周辺の美化活動を通して、防災や環境、生物などを学ぶことを目的として平成23年に発足、小学校や自治会などと連携し、現在20人が中心となって活動しています。

「川は危ない所という印象が強く、子どもたちが昔のように川遊びをする機会が少なくなってきました。そこで、川平小学校の生徒に呼びかけ、川遊びを体験してもらいながら、安全な遊び方や川の中や周りの生き物などを一緒に学ぶ講習会を開きました。実際に体験することで、川の素晴らしさ、注意点を学び、川に愛着を持ってもらうことができたと思います。参加した保護者からは「川の近くに住んでいたけど一度も子

どもを遊ばせたことがなかった。初めて楽しさや遊び方が分かって良かった」という声も聞かれました」と代表の高松隆也さん。

他にも専門家や地域の消防団を呼んで「川と水の安全講習会」を企画。川が急に増水した時はどんな風に動きにくいかなどで再現したり、ロープの結び方やライフジャケットの正しい着用方法などを学ぶ勉強会も開いています。

「川平地区は昭和57年7月の長崎大水害で多くの犠牲者が出ました。いざ災害が起きた時、大切なのは地域全体が「助け合い」の気持ちを持って動くこと。活動を通して顔見知りになることで、住民同士の交流にも繋がっていると思っています。お互い様の精神で住民が声を掛けあって、もっと地域が元気になれば嬉しいです」と高松さん。



蛍のシーズンが終わった7月から、草刈りなどを行っています



子どもも大人も一緒になって活動しています

第4回

中島川変流工事跡

—第1次長崎港改良工事—

長崎大学名誉教授 岡林 隆敏



中島川変流工事跡

幕末から明治初期の混乱の時代、長崎港の維持管理が十分に行なわれなかったために、港に流入する河川の河口部では、土砂の堆積が著しく進行した。特に、港の中心部の中島川河口では、干潟が露出するようになり、外国船が港に接近できなくなってきた。

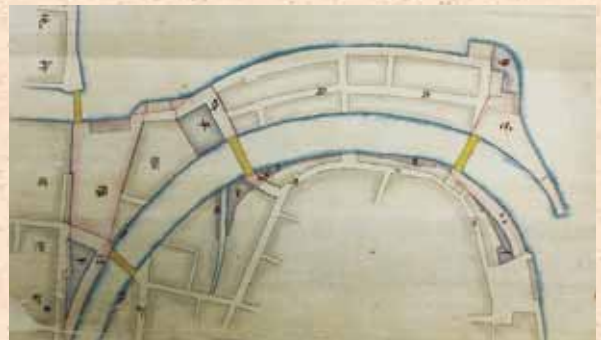
長崎県は明治10年(1878)、明治政府に長崎港の調査を要請した。明治政府は当時、港湾の水理に詳しいオランダ人御雇外国人デ・レーケ(Johannis de Rijke)を長崎に派遣し、調査をさせた。その結果、河川からの

土砂の流入防止と港内の浚渫により、港の閉塞を回避しようとしたが、出島前面の干潟の成長は止まらなかった。そこで、デ・レーケは中島川から送流される土砂を、出島正面(県庁側)を通して港の北部に流出させる、新しい河川を掘削する「中島川の変流」を、明治15年(1882)提案した。

このような経緯を経て、明治15年から明治26年(1893)にかけて第1次長崎港改良工事として、①河川からの流入土砂を防止する砂防工事、②港内の浚渫、③中島川変流工事が行われた。明治18年(1885)から、長崎水道の工事長として長崎県に招請された吉村長策が、港湾工事の指導に加わり、「プリストマン浚渫船」を使用するなど、近代的な築港修技術を投入した。

中島川変流工事は、明治20年(1887)から明治22年(1889)にかけて行われた。変流の図面が、「雑書綴附中島川変流工事及架橋設計書」に描かれている。変流前の中島川は「鉄橋」付近から直進し、現在の十八銀行本店近くに河口があった。これを長久橋付近から出島の正面(県庁側)に屈曲させて、河川の付け替えと拡幅を行った。そのために出島側を18~20m掘削し、河口部に石積みの導流堤を築いた。河口付近は軟弱地盤であったために、導流堤の基礎にはオランダ式の粗朶沈床そだんしようが用いられた。変流後の河口付近に鉄製トラス橋「新川口橋」が架設されたが、その後移設されて、現在の「出島橋」となり、日本最古の鉄橋として供用されている。

第1次長崎港改良工事は、明治政府が行った、野蒜港(宮城県)、坂井港(三国港)(福井県)に次ぐ、3番目の港湾工事であった。また、長崎県にとっては、明治時代になってからの最大の土木工事であった。出島の曲線に沿う中島川兩岸の石垣は、中島川変流工事の時代のものである。港湾都市長崎の近代化を目指した足跡を、出島付近の中島川の曲線に見ることができる。



中島川変流の工事図面(長崎歴史文化博物館蔵)

シンポジウムを開催します!

第19回 水シンポジウム2014 in ながさき



土木学会水工学委員会・国・県・市が主催となり、見直そう!「水と人との関わり」と今後の備え ～和(わ)・華(か)・蘭(らん)まちから水に学ぼう・取り組もう～ をメインテーマとして、水が自然や人に与えるさまざまな恩恵と諸問題について、県民・事業者・研究機関・行政が幅広く議論や意見交換を行い、「水と人との好ましい関係」を全国に発信するため、シンポジウムを開催いたします。

- ◎と き／8月21日(木) 午前9時30分～午後5時10分(午前9時開場)
- ◎ところ／長崎ブリックホール(長崎市茂里町)
- ◎申込／8月8日(金)まで

参加費無料

※下記のURLに開催内容、受付方法を記載しています。

<http://www.mizusinpo2014.com/> 水シンポ2014

検索

◎問い合わせ先／長崎県河川課 ☎095-894-3083



建設3協会と大規模災害時の 広域支援協定を結びました。



平成26年5月28日に長崎県建設業協会、長崎県港湾漁港建設業協会並びに長崎県地質調査業協会と「大規模災害発生時における広域支援活動に関する協定」を締結しました。

災害発生時に地域の枠を超えた支援活動により、県民の皆様のさらなる安全・安心を確保します。

第26回 長崎県まちづくりの絵コンクール

- テーマ
「あったらいいな こんなまち」
- 応募資格
県内在住の小学生
- 応募期限
平成26年9月12日(金)

◎詳しくは
県都市計画課ホームページ(長崎県都市計画課 検索)
をご覧ください。

■問い合わせ先：長崎県都市計画課 ☎095-894-3033



土木部長の浅野です。よろしくお願ひします。

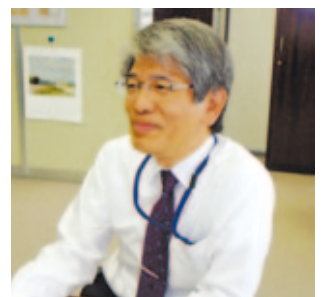
はじめに、自己紹介ですが、私の故郷は名古屋です。

大学まで名古屋におり、それから建設省に入省し、約30年近く主に河川分野に携わってきました。主に、関東・中部地方に勤務してまいりまして、信濃川や木曾川などの河川行政を行ってきました。

街づくりにあたり、長崎は、歴史だったり、地形だったり、風景だったり、個性がはっきりしていて、「こういう街です」というのが言えるのが良いところだと感じています。

長崎の地域のポテンシャルを高めるような人や産業・地域を支える社会資本整備が促進されるよう、少しでも長崎県のお役に立てる仕事ができればと思っています。

最後になりますが、広域交通ネットワークの整備を加速させるとともに、県民の安全・安心な暮らしを守る長崎県土づくりに、職員一丸となって全力で取り組んでいきますので、土木部事業へのご理解をよろしくお願ひします。



あさの かずひろ
土木部長 浅野 和広

◎プロフィール
・昭和37年1月6日生まれ(52歳)
・昭和59年建設省に入省。
・総合政策局事業総括調整官室企画専門官、国土交通省中部地方整備局河川部河川調査官、木曾川上流河川事務所長等を経て、平成26年4月より長崎県土木部長。
・座右の銘は、「初心忘るべからず」。最初に新鮮な目で感じたことを忘れないようにしたい。
・趣味は天体観測、プラスバンド。

「DOVOC通信ながさき」についてのご質問・ご感想は下記までお願ひします

宛先◎〒850-8570 長崎県土木部建設企画課 ☎095-894-3021 FAX095-894-3461 ✉s08080@pref.nagasaki.lg.jp